

吉田周史(よしだ しゅうじ)  
18年度3次隊 経済・市場調査 ポリビア

### プロフィール

滋賀県大津市生まれ。高校卒業まで大津市で過ごし、大学進学のために北海道へ。大学卒業後は北海道で就職、約10年間勤務後、2007年に青年海外協力隊に参加。

### 気候や文化の紹介

派遣国ポリビアは南米大陸中央部の内陸国で、国土の約40%がアンデス山脈の高地・渓谷部から成り、首都ラパスは富士山山頂とほぼ同じ、標高3,700mに位置します。私の任地、バンド県コビハ市はポリビアの北の端、ブラジルとの国境に位置する人口5万人程度のジャングルに囲まれた小さな街です。アマゾン川流域の亜熱帯気候に属し、乾季(5月～10月)・雨季(11月～4月)の区別はあるものの、年中通して高温・多湿の常夏です。

ポリビア国全体としては南米一先住民(インディヘナ)の人口比率が高く、その伝統的な文化(民族衣装・生活様式・音楽・踊り)が未だ色濃く残っているのが魅力と言えます。

### 活動や生活について

任地では経済・市場調査隊員としてバンド県庁の生産開発局に所属し、県内住民の生活水準向上を目的とした収入向上・雇用拡大・健康衛生状況改善等のためのプロジェクトの立案・遂行のお手伝いをしています。任地の人々(職場の仲間、友人、住居賃借先の家族)は当初から、スペイン語によるコミュニケーション能力に劣る日本人を暖かく迎え入れてくれ、彼らのお陰で毎日充実した楽しい生活を送ることができています。

ここでの毎日は正に南国楽園生活。家族や友人と過ごす時間をとても大切に、ゆったり・のんびりした時間が過ぎて行きます。南米全体に共通するおおらかな人々の性格に、南国生活特有のゆったり感が輪をかけているのでしょうか、私にとって、とても心地の良い生活です。



川沿いの家々の風景

赴任から約1年半経った頃に任地での政治的混乱により戒厳令が発布され、私自身約4ヶ月間首都での退避生活を余儀なくされました。この非常事態を通じて多くの知人・友人が自身の生活に悪影響を被り、街全体から活気が無くなる、という悲しむべき経験をしましたが、そんな中で、多くの方が退避中の私のことを心配し、「早くコビハ(任地)に帰って来い。」と言ってくれたのは、涙が出るほど嬉しかったです。

現在は街の状況は安定しているのですが、帰国間近の今、少しでも早く元の活気あるコビハに戻ることを祈らずにはられません。



職場から見た街の風景



職場近くの市場の風景